

遺伝学に分野の壁は存在しない



遺伝学専攻の特色

1. 複数教員による支援体制
2. トップレベルの研究環境
3. 盛んな研究交流
4. 充実した科学英語教育
5. 豊富な支援制度
6. 学位取得後の多様な進路

2019年度 国立遺伝学研究所

大学院生募集

— 総合研究大学院大学 遺伝学専攻 10月または4月入学 博士課程(5年一貫制・3年次編入学) —

大学院一日体験会 三島

2019年5月25日(土)

▶お申し込み先

<https://www.nig.ac.jp/nig-daigakuin/>

事前申し込みで交通費支援(条件付)

体験入学 三島

2019年5月下旬 募集開始

<https://www.nig.ac.jp/nig/ja/phd-program/taiken>

イベント詳細・入試情報は、確定次第ウェブサイトに公開します。

公開講演会 東京

2019年11月16日(土)

※大学院説明会を同時開催します
<https://www.nig.ac.jp/kouenkai/>

アクセス

新幹線

名古屋

約80分

三島

約45分

東京

国立遺伝学研究所(遺伝研)は、総合研究大学院大学(総研大)生命科学研究所の遺伝学専攻として、大学院生の教育をおこなっています。遺伝研では、「染色体・細胞」「発生・生殖」「脳科学」「エピジェネティクス」「進化・多様性」「ゲノム・大量情報」などのキーワードで、様々なモデル生物やデータベースを用いた最先端の研究をおこなっています。遺伝研は、研究者を目指す学生にとって最高の研究環境を提供し、トップクラスの研究者を養成しています。

遺伝学専攻の特色

1. 複数教員による指導体制

遺伝学専攻における教育の最大の特徴は、「全教員による指導」という理念です。全教員が入学試験に参加して合議で適性判定をおこない、入学後も指導教員以外の教員(最大4名)によるプログレス委員会が学生と毎年面談して、研究の進め方について助言、学位論文の作成のサポートや将来の相談などをおこなって、研究者としての成長を支援します。年1回のポスター発表会では、所内の様々な立場の研究者と議論できます。

2. トップレベルの研究環境

遺伝研は「大学共同利用機関」として学術コミュニティ全体の研究を促進し、新しい分野を開拓しています。この研究環境を最大限に生かして研究できることも魅力のひとつです。最先端の研究機器、施設やリソースの使用だけでなく、遺伝研を訪問する多くの研究者との交流を通じ、最先端の研究技法と分野を俯瞰する学際的能力が培えます。

3. 盛んな研究交流

所内で頻繁に開催される国内外の著名な研究者によるセミナーや様々な分野の研究会に参加できるほか、演者らと交流する機会があります。総研大の生命系4専攻の大学院生が集う生命科学リトリート(合宿形式の研究会)も毎年開催されます。

4. 充実した科学英語教育

国際的研究者として活躍する能力を向上させるために、科学英語教育(科学英語口頭演習、遺伝学英語筆記表現演習)に注力しています。科学英語口頭演習においては、遺伝研の研究者が開発した科学英語教育プログラム「遺伝研メソッド」を使った外国人専任講師による授業が特徴です。大学院教育における「英語公用語」方針や高い留学生比率(40%)といった国際的環境を活用して、いながらにして「英語で議論する力」を身につけることができます。

5. 豊富な支援制度

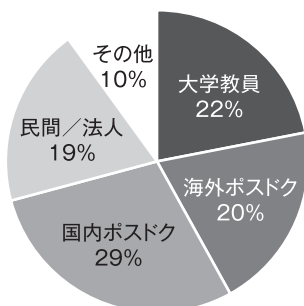
RA(リサーチアシスタント)制度による経済支援、学生が入居できる宿舎の整備などの生活支援をおこなっています。さらに学会参加や海外渡航などの助成や、論文やプレゼンテーションに対して助言をおこなう「道場」など、様々な研究活動支援制度があります。

6. 学位取得後の多様な進路

学位取得後、多くの卒業生が国内外の研究機関で博士研究員やアカデミックポジションに就き、また民間企業への就職なども含めて、関連分野で活躍しています。



これまでの
学位取得者の
現在のポジション



大学院一日体験会
2019年5月25日(土)

- ・ポスターによる研究活動紹介
- ・実際の研究環境を直接体験

事前申し込みで交通費支援(条件付)

公開講演会
2019年11月16日(土)

- ・最先端の研究成果を紹介
- ・大学院の紹介
- ・研究者、大学院生と直接話せる

体験入学

随時受入/春休み定期受入

- ・実験・セミナーを一週間体験

遺伝研宿泊施設の無料提供
交通費支給

見学会

2020年2月下旬~3月上旬

- ・ポスターによる研究活動紹介
- ・研究室見学

年間スケジュール

